

Green Brave

#52 Green Brave GR Supra GT



Round.5

SUZUKA GT 300km RACE GRAND FINAL

2024年12月7日(土)～8日(日) 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

## ■■■■ 冬季のタイヤマッチングに苦しみ 11位フィニッシュ ■■■■

今大会は延期になった第5戦の振替戦。SUPER GTのルール通り、恒例のノーウェイト戦です。土曜日(予選日)の天候は晴。9時15分から95分間の公式練習が行われ、吉田選手、野中選手の順にコースイン。最初のタイヤで走行を続け、ピットインのたびに車体の調整を行います。10分間のGT300専有走行は野中選手が担当。別のタイヤに交換し、予選を想定した走行を行いますが、走行中に赤旗中断となり、セッションは終了。ベストタイムは野中選手が序盤にマークした1分57秒251(10位)で、ウェイトが軽くなっても、直線スピードに優れるFIA-GT3有利の状況は変わりません。

Q1の予選は14時13分から25分間。初めて行われる新フォーマットの予選です。アタックを任された吉田選手は、開始約8分でコースイン。すでに10台以上のクルマがアタックを行っており、吉田選手は6周目に1分56秒817をマーク。14位につけ、Q2上位組(U14)に駒を進めました。Q2は15時40分から15分間で行われ、野中選手は予選開始の合図と同時にコースイン。5周目に1分56秒024をマークしますが、走路外走行の判定があり、アタックを継続します。野中選手は6周目に1分56秒344をマーク。吉田選手との合算タイムにより、予選11位となりました。

日曜日(決勝日)の天候は晴。前日より気温は低く、肌寒いです。スタートドライバーは野中選手。早めのピットインでアクシデントに巻き込まれるリスクを避け、吉田選手につなぐ作戦です。野中選手は1つポジションを下げ、12位で1周目を終了。コーナーでFIA-GT3勢との差を詰めても直線で離される状況で、なかなか仕掛けることができません。7周目、上位車両のスローダウンにより11位に上がると、8周目にはFIA-GT3勢の1台をパス。翌周には上位車両のコースアウトによりFCY(フルコースイエロー)が導入され、9位まで順位を上げます。しかし、FCY解除後の10周目、2台に抜かれ、再び11位へ。FCYでタイヤが冷えた直後はペースの回復に時間がかかり、苦しい状況です。レース周回数の3分の1を過ぎた15周目、チャンピオンを争うクルマが先頭をきってピットイン。翌周にはたくさんのクルマがピットに向かい、野中選手もピットに戻ります。野中選手のコメントをもとに、4人の店舗メカニックが給油とタイヤ交換を素早く実施。吉田選手を送り出します。

コースに復帰した吉田選手の順位は22位。上位のピットインは25周目まで続き、吉田選手は15位まで浮上しますが、1つ後の#60 GR Supraが後方から急接近。27周目にはテールトゥノーズとなり、2回目のFCYが解除された29周目に抜かれ、16位に後退します。その後、2台を抜き、14位に上がりますが、10周以上にわたり、60号車を追う展開に。同じ車種だけに決め手を欠いていた吉田選手ですが、42周目にオーバーテイク成功。前が開けた吉田選手はペースアップし、43周目に#7BMW、44周目に#5 86を立て続けにパス。11位まで順位を上げますが、10位のクルマとは大差がついており、追い上げもここまで。11位でチェッカーを受け、Green Braveはチームおよびドライバーランキングともに9位でシーズンを終えました。

### 決勝結果(GT300クラス)

#52 Green Brave GR Supra GT  
(吉田広樹/野中誠太)

決勝: 11位(46周、1時間44分20秒520)

予選: 11位(合算タイム: 3分53秒161)



## DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

**予選後:**予選のアタック時にミスをしてしまいました。結構大きなミスだったので、まとめきれたら良いアタックだったと思うのですが、そこは自分の課題です。サクセスウェイトを降ろして軽くなっていると思うのですが、軽いから良くなっているとはあまり感じません。寒さでエンジンが良くまわってストレートが伸びているというのはあると思います。明日は300kmの短いレースなので、ブリヂストンのタイヤの強みを引き出し、いいところうまくはまって順位を上げたいです。

**決勝後:**タイヤを換えるか無交換か、本当に難しいレースでした。誠太のフィーリングやいろいろな情報をもとに、交換することを決めたのですが、ウォームアップとFCY明けが厳しくて、はじめの数周の間にギャップを広げられたり、オーバーテイクされたりして、難しかったです。タイヤに熱が入ってからのペースは悪くなかったのですが、今度は速い場所が異なるクルマにたくさん引かかってしまい、なかなか抜けませんでした。どの作戦が正解だったのか難しいレースでしたが、自分たちはこれがベストだと思ってチャレンジしたので受け入れるしかありません。来年、強くなって戻ってきたいと思います。



野中誠太 選手

**予選後:**走り始めから予定通りのメニューをしっかりとこなしていて、バランスは悪くなかったのですが、それでもトップとは差がありました。1回目は走路外に出てしまい、2回目はセクター4でミスがありました。若干タイムは落ちましたが、順位的にはあまり変わらなかったです。最終戦なので、最低限表彰台とか、上を目指したいところですが、明日に向けてもうワンステップ、スピードを上げていかなければ上位にからむのは難しい現状です。明日はぼくらの戦略でうまく前に出て、粘り強いレースができればと思っています。

**決勝後:**タイヤの温まりが非常に厳しい中、無理なバトルはできなかったです。ペース自体もなかなか上がらず、いつもよりも追いつけることができなかったのも、そこは非常に苦しかったと思います。前はFIA-GT3勢で、コーナーではこちらの方が速いのですが、抜き切るだけのスピードがなかったのと、寒い時期だったので、他車のペースもあまり落ちませんでした。FCY解除後の温まりも悪く、今回はタイヤのマッチングが悪すぎました。ブリヂストン勢の中でもかなり後方に沈んでしまったので、しっかりと話し合い、来年はこういうことがないようにしたいです。

### GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車種)	周回数
1位	VENTENY ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3 EVO2)	47周
2位	muta Racing GR86 GT (トヨタ GR86)	47周
3位	apr LC500h GT (レクサス LC500h)	47周
4位	LEON PYRAMID AMG (メルセデス AMG GT3)	47周
5位	UNI-LOBO BLUEGRASS FERRARI (フェラーリ 296 GT3)	47周
6位	D'station Vantage GT3 (アストンマーティン ヴァンテージ GT3 EVO)	47周
11位	Green Brave GR Supra GT (トヨタ GR Supra)	46周

天候:晴 路面:ドライ トップ7まで(出走27台)

### GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	88	JLOC	113
2位	65	K2 R&D LEON RACING	108
3位	8	muta Racing INGING	100
4位	777	D'station Racing	76
5位	7	BMW M Team StudierxCRS	65
6位	31	apr	60
9位	52	埼玉 Green Brave	47

## PARTNERS

